

ピロリ菌検査の重要性

ピロリ菌除菌でがん予防！

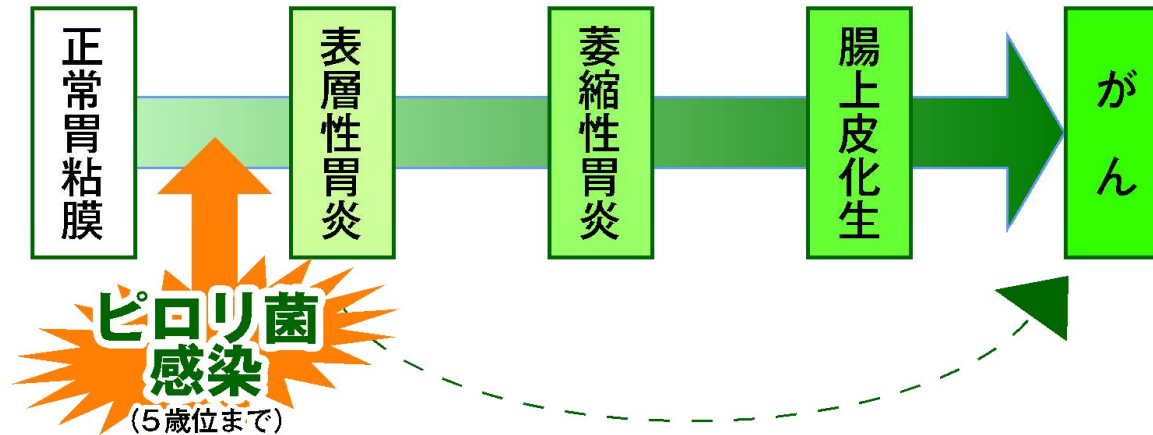
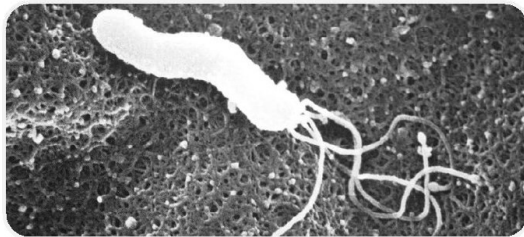


ピロリ菌検査をお勧めする理由

- 胃がんはピロリ菌の持続感染が原因と解明されています。除菌をすることで、胃がん発症のリスクを減らすことができます。
- しかしながら、年間約13万人が罹患し、約5万人が亡くなっています。
- 基本的に成人であれば、一度検査すればよく、胃炎にもピロリ菌除菌の保険適用が可能になり、除菌しやすい環境ができて予防効果が高い。(陽性の場合除菌判定時の検査が必要)
- 「ピロリ菌検査」はどの健康保険組合の組合員様でも関心が高く、申込率、受診率ともに高い検査となっています。

胃がんはピロリ菌の持続感染が原因です

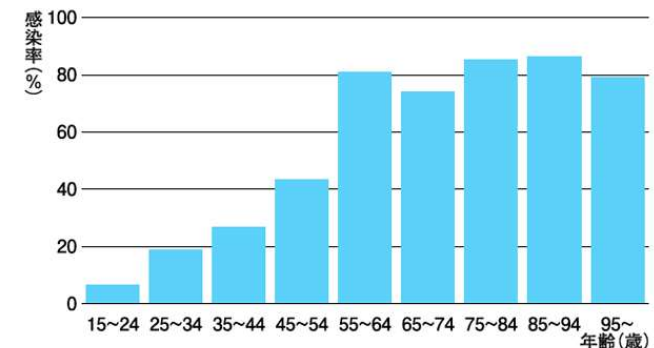
ピロリ菌感染から
胃がん発生まで



ピロリ菌は、胃に住む細菌で、免疫力の弱い5歳くらいまでの間に感染し、除菌治療をするまで感染は持続します。

ピロリ菌感染により胃の粘膜が傷つけられ、やがて慢性萎縮性胃炎を経て、胃・十二指腸潰瘍や胃がんをひきおこすことが解明されています。

ピロリ菌の年代別感染率

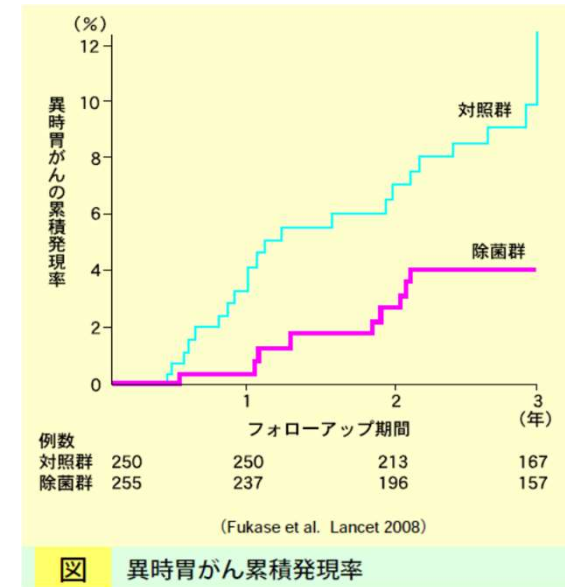


※ (Asaka, M., et al.: Gastroenterology, 102, 760, 1992) から改変。
中高年世代の感染率は除菌によってこれより下がっている可能性がある。

ピロリ菌除菌で胃がんの発生を 3分の1に減らせます

右図はピロリ菌を除菌することにより胃がんの発生が1/3に減少したことを示しています。

(日本ヘリコバクターピロリ学会資料より)



胃がん予防としてのピロリ菌除菌が保険適用に！

2013年3月から、ピロリ菌除菌治療が、胃・十二指腸潰瘍などに加え、「胃炎」にも保険適用されました。

(ただし、保険適用のためには内視鏡による確認が必須です。)

